

言語活動の一目標的な学力調査の結果、「中・高生の社会参画に向けた実践力の育成」や「思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実」について解説いたしました。

意味や背景、課題を読み解き、視聴者にわかりやすく伝えることにある。今回のセミナーでは、教育分野の解説委員である西川氏から、貴重なお話を伺うことができた。

力・表現力」を重視する大學入学者選抜方法への変更により、主体的・多角的な遊びや協力し合つて学ぶことが大事となつてくると思われ、このような学習を中心とした段階でも取り入れて学生の段階でも取り入れて

いてどのように考えるか、課題も残されている。さらに、高校での「日本史必修化」について、過去のことを見なぐことをしなければ「日本」がない国になつてしまふ」というお話をもつた。

東京都足立区立花畠北中学校
校長 関 眞規子

全中社研・関プロ中社研
共催の冬季セミナーは、平
成26年12月26日(金)に、東京
都文京区立茗台中学校で行
われた。講師のNHK解説
委員室解説委員である西川
龍一氏から「教育改革が社
会科教育に及ぼすことは」
と題されたご講演をいただ
いた。

解説委員とは、政治・經
済・社会・科学文化・国際
の各部の記者や番組のディ
レクター、アナウンサー
として一線で活躍しなが
ら、日々それぞれの担当分
野の情報収集や研究を重ね
て専門性を磨いている、そ
れぞれの分野で専門性を
培ってきたスペシャリスト
である。解説委員の役割は、
時々刻々と世界各地で起き
ている出来事を、独自の視
点で取り上げて的確に分析

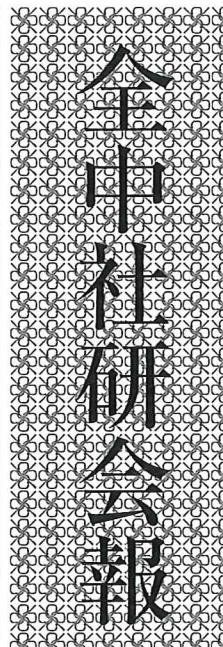
校教育、大学教育、大学入学者選抜改革についてのお話があった。今年の12月22日に出された中教審の答申では、「大学入学希望者学力評価テスト」を、大学入学希望者に挑戦の機会を多く与えるために複数回実施する、各大学の個別選抜における多様な評価方法の導入を促進することが示されている。「知識・技能」を単独で評価するのではなく、「思考力・判断力・表現力」を中心的に評価するので、解答方式については、多肢選択方式だけではなく、記述式を導入すること。さらに全ての高校生について、高等学校段階の基礎学力を評価する学力評価テスト「高等学校基礎学力テスト」を新たに導入することが答申されている。こちらは、主として学力の基礎となる「知識・技能」を評価するも

2点目に新学習指導要領についてのお話があつた。11月に文科省に出された諮問で答申の姿が先取りできる。その中で触れられていることの1つに、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要がある、とされている。たとえば、日本的小・中学生の学びの中で、既得知識を活用する場面を充実させ、知識を活用する力を小・中学校でも高めていく必要がある。また、持ち運びに便利であり画像が鮮明であるタブレットを教科書代わりに活用することは反省学習にも適しており、時間の節約にもなることにも言及された。しかし、新たな学習・指導方法や、新しい学びに対応した教材やソ

正しい言語しかもたる書分を未来に向けて継続して行うことにより、歴史認識をしっかりともつことの必要性を感じた。

今回の冬季セミナーでお話いただいたことは、これから社会科学習の指導に大いに参考になる内容で、あつた。

全中社研滋賀大会を振り返って



全国中学校
社会科教育
研究会
(略称全中社研)
<http://www.zenchusuya.com>

- 石上和宏全中社研会長
高田満彦滋賀大会実行委員長の挨拶に続き、中尾敏朗文部科学省初等中等教育局視学官、河原恵滋賀県教育委員会教育長から祝辞をいただいた。
- 基調提案
井上陽平研究部長から基調提案として、研究のあゆみや概要、各分野における重点等を説明した。
記念講演
写真家・今森光彦氏より「里山という身近な自然」と題したご講演をいただいた。
- 表彰
全中社研ならびに近中社

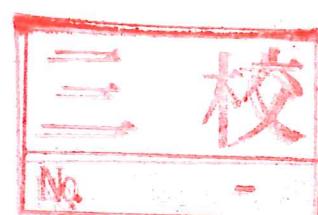
- 研究協議 渡邊圭祐分野長が分野別提案を行い、協議後、兵庫教育大学大学院米田豊教授からご指導をいただいた。
- 研究発表・講師講評 岐阜県の今西祥幾教諭が研究発表を行った。その後、演野清文部科学省教科調査官よりご講評をいただいた。
- 歴史的分野 ○ 歴史的分野
- 会場・彦根市立東中学校
- 公開授業 伊直弼の決断に迫るの授業を実施した。

- 森康夫教諭が「私たちのまちづくり」～市中心市街地活性化基本計画の通信簿～の授業を実施した。
- 研究協議 宮下茂久分野長が分野別提案を行い、協議後、滋賀大学教授岸本実教授からご指導をいただいた。
- 研究発表・講師講評 広島県の重秀雄教諭が研究発表を行った。その後樋口雅夫文部科学省教科調査官よりご講評をいただいた。
- 大阪大会実行委員会 事務局長 上田真也
- (滋賀大学教育学部
附属中学校教諭)

(大津市立 第四十七回全国中学校社会科教育研究大会は、十一月六日・七日の両日に、大津市・彦根市・守山市において開催されました。この大会は近畿中学校社会科教育研究大会も兼ねており、滋賀県の属する近畿中学校社会科教育研究会に当たり、これまでの近畿の研究を総括する意味でも重要な大会でした。

九百七十名（来賓・大会役員等を含む）もの参加者を迎えることができました。大会一日目は、多くの来賓の方々にご参列頂いた式典、基調提案に続き、記念講演では本県出身で日本を代表する写真家の今森光彦氏により、琵琶湖を取り巻く環境を美しい「里山」のスライドを通してご紹介頂きました。琵琶湖とその周辺の自然との調和を、長い間いろいろな工夫によつて保つてきた先人の知恵に気づき、私たち滋賀県そし

ととは何かといふことをお話し頂きました。
二日目の分科会は、地理・歴史・公民の三つの会場校に分かれ、公開授業や研究発表を通して白熱した討議が展開されました。本大会が掲げる研究主題の「社会を創る力を育てる社会科学習」～「わかる」「つながる」「つくる」～についての質問も多く、全国からの参加者だけでなく本県社会科部会員にとっても、大変有意義な機会となりました。ご協力頂きました皆さん方に對し紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



全中社研滋賀大会を終えて

104

て日本に住む人たちは日本人
にしていかねばならないこ

全国中学校社会科教育研究会会長
(東京都江戸川区立上一色中学校長) 石上和宏

今年度の滋賀大会は十一月六・七日の二日間、滋賀県大津市を中心に彦根市、守山市の三市において開催しました。昨年度に引き続き近中社研との共催となりましたが、県内外から多くの参観者を迎える盛會裏に終了することができました。

大会運営にあたられました滋賀大会高田満彦実行委員長をはじめ、実行委員の先生方のご努力に対し、心から感謝申し上げます。

滋賀大会は研究主題「社会を創る力を育てる社会」の環境教育の盛んな大津市の歴史的分野は彦根城のある

科学習「わかる・つながる・つくる」のもとに研究実践を積み重ねられてきました。「社会を創る力」をもつて、「平和で民主的な社会を構想し、自ら創り出そうとする資質・能力」として、副題を熟考・評価・論述する総合的に「わかる」という協同の学びを重視して「つながる」とこと、社会参画として「つくる」とこととしていました。また、分科会の会場を地理的分野は琵琶湖の環境教育の盛んな大津市の歴史的分野は彦根城のある

彦根市、公民的分野は地域
コミュニティに取り組んで
いる守山市と分散し、各地
域の若手教員の育成と社会
科教育の発展を願う分散型
の大会でした。そこには滋
賀県の中学校で滋賀県の生
徒が学ぶ様子をみてもらい
たいという熱い思いを感じ
ました。記念講演は写真家
の今森光彦氏が琵琶湖の環
境に対する思いを熱く語っ
ていただきました。まさに
環境県、滋賀の一端をみる
ことができた大会でした。

次年度の第48回全国大会
は岐阜大会です。岐阜県中
学校社会科研究部会の先生
方の研究にご期待申し上げ、
報告とさせていただきます。

